

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創始者の建学精神「適切な教育を受けることによって、人生の幸福をつかむことができる」をもとに、めまぐるしく変革している社会で、子どもたちが豊かな人間性と社会性を育み、自立と社会参加及び貢献ができるよう、一人ひとりに応じた教育を行う。

- 1 幼児児童生徒の一人ひとりを大切に、安全に安心して学ぶことができる学校
- 2 幼児児童生徒の学ぶ力の育成とキャリア形成をはかり、子どもたちの夢がかなえられる学校
- 3 教職員が聴覚障がい教育を中心とした支援教育の高い専門性を継承し、働きがいのある学校
- 4 地域や地域の学校園とのつながりを深め、センター的機能を果たすとともに、地域に開かれた学校

めざす幼児児童生徒像

【 豊かなコミュニケーション 自ら学ぶ力 夢に向かってチャレンジ 】

2 中期的目標

1. 学校全体が人権尊重の意識を高く持ち、地域や保護者と連携しながら、安全で安心して学べる学校づくりを進める。
 - (1) 関係機関等と連携し安全に対する意識変革を行い、子どもたちが危機に対し自ら回避できる能力を育む。
 - (2) 子どもたちへの人権尊重の教育を進めるとともに、研修等で教職員の人権意識のさらなる向上を図る。
 - (3) 感染症対策や熱中症対策などをすすめ、全ての子どもが安全で安心して活動できるよう、健康安全体制を充実させる。
2. 子どもたちの学ぶ力の育成とキャリア形成をはかり、変革する社会で生き抜く力を育む。
 - (1) 将来の自己実現をめざし、早期から一貫したキャリア教育に取り組み、自主性・社会性を育むとともに、自らの学びを他校や地域社会へ情報発信する力を育む。
児童生徒アンケートで「他校や地域との交流や発表が楽しい、世界が広がった」の肯定率を令和6年度までに80%にする。(新)
 - (2) 「わかる授業づくり」を進め、基礎学力の定着を図るとともに、知的好奇心を刺激し、子どもたちの学びへの意欲の向上を図る。
児童生徒・保護者アンケートで、「見てわかる授業の満足度」の肯定率を令和6年度までに85%にする。R3 75%
(1)(2)の取り組みを通して子どもの学校生活での満足度(学校生活、授業、学校行事、進路等)を令和6年度までに80%以上にする。
R3 [76%] R2 [76%]
3. 聴覚障がい教育を中心とした教員の専門性の向上を図る。
 - (1) 子どもたちの自ら学ぶ力を伸ばすために、研修や校内研究を充実させ、聴覚障がい教育を中心とした支援教育全体の専門性の向上をはかる。
 - (2) 1人1台端末の有効な活用をめざし、教職員のICT活用のための研修を計画的に行い、活用に関わる知識や技能を向上させる。
教職員アンケートで、「ICT機器活用力」の肯定率を、令和6年度までに80%以上にする。 R3 62%
 - (3) 働き方改革を推進し、校務の効率化をめざす。働き方の多様性を認め合い、教職員が助け合いいきいきと働ける職場づくりを進める。
4. 地域や地域の学校園とのつながりを深め、聴覚障がい教育支援のセンター的機能を充実するとともに、地域に開かれた学校づくりを進める。
 - (1) 聴覚障がいに関する多様な相談に対して適切な支援を行い、連続性のある学びの場の確保のために、支援体制を充実する。
 - (2) HPや研修、相談支援などにより、聴覚障がいの理解についての啓発活動を推進する。
 - (3) 防災に関わる取り組みについて地域の学校園等と情報交換し連携を強める。SDGsや防災の取り組み等を地域に発信し、共に取り組むコミュニティを形成する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 4年 12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○教職員アンケートの結果：回収率94%</p> <p>全項目で肯定的評価が前年度を上回った。今年度は「ウイズコロナの状況下でやり続けることができること」を方針として教育活動を行った結果、感染対策は必要なものの、かなりの教育活動が以前のようにできるようになったことによるものと考えられる。肯定的評価のうち「そう思う」の割合は12項目中8項目で10%以上増加している。教職員各自が、コロナ禍3年目の中でできるよりよい教育について追求し、努力研鑽を行ってきた自負が現れていると考える。</p> <p>視覚支援やICT機器の活用…78% (+6%) 昨年から課題となっていたが、ICT機器やタブレットの活用力を上げている。研修等も活用し、引き続き取り組む。</p> <p>管理職と教育活動について話す機会…65% (+11%) 今後も教職員の意見を聞きながら、ともに進める学校運営を意識していく。</p> <p>○保護者アンケート：回収率 86%</p> <p>全ての項目で前年度から肯定的評価が増加しており、今年度の教育活動に日頃からご理解をいただいていたことがうかがえる。特に、授業のわかりやすさ、将来の進路や職業に関する指導、いじめや困りごとへの相談の項目では肯定が10%以上増加している。今年度新設の、タブレット活用の問いについては肯定67%であった。今後、授業での活用を増やしていくことや、子どもたちがタブレットを用いた家庭学習を日常的にできるように、取り組みをさらに進めていきたい。</p> <p>○児童生徒アンケート：回収率88%</p> <p>ほぼ全ての項目で前年度比3～17%肯定が伸びている。子どもたちも充実した活動を送れているのがうかがえる。唯一、学校へ行くのが楽しいの項目が74%で-5%であった。特に、中・高等部で友人関係や進路等で不安を抱えているケースもある。子どもたちの気持ちを聞き、不安があればともに考え寄り添う姿勢を大切にしていきたい。</p>	<p>第1回(6月16日開催)【学校経営計画について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールロイヤーによる人権研修では、法的な視点と教育上の視点について研修してほしい。 ・ろう難聴の生徒のコミュニティとして寄宿舎がある強みを活かしてほしい。 ・保護者の立場として、学校行事や避難訓練等の防災活動により多く参加できるよう協力したい。 ・各学部の連携について、それぞれのつながりを見える化していくのがよいのではないかと。例えば中学部と高等部の集団活動や、小学部と中学部のSDGsでの連携などを考えてほしい。 ・小学部3～4年生から学習が論理的になる。「見てわかる」授業に加え「言語化」が必要。9歳の壁についても考察してほしい。 ・社会人としてのマナーを身につける取り組みをロールプレイ等の方法で進めてほしい。 <p>第2回(10月28日開催)【学校経営計画(中間報告)について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域として、今後もさまざまな面で協力して進めていきたい。 ・各学部のキャリア教育について「キャリア教育プログラム」の全体像との関連を示してほしい。各学部の取組みが繋がるように考えてほしい。プログラムを校内で十分理解して進めてほしい。 ・教員の仕事は、子どもが「もっと知りたい」と思える授業をすること。ICT機器の使用や教科の壁にとらわれず、相互に見合っただけで批評しあう研究授業を大切にしてほしい。 ・板書、口形、手話、話し方などオーソドックスな研修も必要。生徒の意欲を引き出すような授業をどのように進めるかを研究してほしい。 <p>第3回(2月22日開催)【学校教育自己診断、R4学校経営計画評価、R5学校経営計画案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育についてプログラムの全体像と関連づけた各学部の取組み状況を理解できた。 ・学校教育自己診断のほとんどの項目で前年度よりも肯定的評価の割合が上昇している。授業や子どもたちへの関わりにおいて積み重ねができてきたと捉えられる。 ・中高生だけでなく小学生も奈良ろう学校と交流ができたとのこと。仲間づくりが広がると良い。 ・ギガスクール構想に関して、ハード・ソフト・指導体制の3つを生かすには、わかる授業ができるスキルが必要。わかる説明・視覚的支援・書記日本語によるおさえ等の研修を進めてほしい。 ・学校は「授業」が大きな柱なので、研究授業や相互見学などの研修を意識して続けてほしい。 ・南大江地区防災訓練にPTAと学校が協力して参加し、防災意識を高めて活動できてよかった。 ・R4学校経営計画評価とR5学校経営計画案については承認をいただいた。

府立中央聴覚支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値] ㊦：アンケートの略語 ㊧：学校教育自己診断の略語	自己評価
1 安全安心な学校づくり	<p>(1) 安全に対する意識変革。子どもたちが危機に対し自ら回避できる能力を育む。</p> <p>(2) 子どもたちへの人権尊重の教育。研修等で教職員の人権意識のさらなる向上。</p> <p>(3) 感染症対策や熱中症対策などを進め、健康安全体制を充実。</p>	<p>(1) ア 実践的な避難訓練と防災学習。子どもたち主体の安全推進活動。</p> <p>イ 保護者と連携した訓練を実施。地域への周知活動や防災体制の連携を行う。</p> <p>(2) ア 道徳や特別活動、HR 活動などを通じて人権尊重の意識を高める。</p> <p>イ 日常の観察や生活㊦で子ども間のトラブル等を察知し、早期に対応・集約・解決する。</p> <p>ウ 人権意識向上のための教職員研修（いじめ防止や体罰防止）を3回実施</p> <p>(3) ア 外部人材等を活用した専門的な講座で子どもたちの学びを深める。</p> <p>イ 緊急シミュレーションなどの教職員の実践力向上の具体的な訓練。</p> <p>ウ 有資格の教員が心肺蘇生の研修実施。</p> <p>エ 感染症対策などの保健教育の充実。</p>	<p>(1) ア 実践的な避難訓練等を3回実施</p> <p>ア SPS サポーターが中心となる安全推進活動</p> <p>ア 子ども㊦で「安全意識の向上」88%[88%]</p> <p>イ 授業参観日等で、引継ぎマニュアルの流れに沿った保護者との訓練の実施</p> <p>イ HP や作品展示等で地域に向け成果を発信</p> <p>(2) ア 各学部、道徳や特別活動で取り組む</p> <p>イ 生活㊦を2回以上実施し、必要な子どもと個別懇談する [2回]</p> <p>ウ 教員の人権研修3回実施 [3回]</p> <p>ウ ㊧「人権尊重の教育」85%以上 [86%]</p> <p>(3) ア 薬物乱用防止、薬の使い方講座などを3回以上実施する [3回]</p> <p>イ 実践的訓練を7回以上行う [7回]</p> <p>ウ 応急手当普及員の資格者を2名増[現2名]</p> <p>エ 各部署で協力し、生徒が主体となり感染予防の発表や指導を2回以上行う</p>	<p>(1) ア 煙避難、起震車体験等3回実施 [㊦]</p> <p>ア 各部の委員会活動等でポスター作りや安全啓発活動を実施 [㊦] ア 子ども㊦84% [△]</p> <p>イ 災害時の引き継ぎを保護者会で説明 訓練実施できず [△]</p> <p>イ SPS 通信を保護者配付・HP に掲載 [㊦]</p> <p>(2) ア 小学部朝会・HR・道徳で学習 中「境界線」活動により理解を深める。高 HR や生徒会活動で学習 [㊦]</p> <p>イ 生活㊦を6月、1月に実施。記載内容について各児童生徒に聞き取り等の対応を実施 [㊦]</p> <p>ウ 4月に体罰防止、8月に人権問題、いじめ防止に関する研修を計3回実施 [㊦]</p> <p>ウ ㊧「人権尊重の教育」99% [㊦]</p> <p>(3) ア 小「薬の正しい使い方講座」中3「薬物乱用防止講座」高「依存症予防出前授業」[㊦]</p> <p>イ 実践的訓練を、幼～高の学部で各1回、寄宿舎3回。計7回実施。安全体制を整えた [㊦]</p> <p>ウ 小1名中1名の教員が資格を取得 [㊦]</p> <p>エ 「生活習慣を整えて感染症予防を」をテーマに、高生徒が小児童に発表、中生徒が幼児童に発表。第62回大阪府立学校保健研究発表大会に中学部生徒が発表校として参加した。[㊦]</p>
2 子どもたちの学ぶ力の育成とキャリア教育	<p>(1) 将来の自己実現をめざしたキャリア教育に取り組み、自主性・社会性を育むとともに、自らの学びを情報発信する力を育む。</p> <p>(2) 「わかる授業づくり」による基礎学力の定着。知的好奇心を刺激し、子どもたちの学びへの意欲の向上を図る。</p>	<p>(1) ア ボランティア活動やSDGsの視点も踏まえた活動に学校全体で取り組み、社会性や物事を多面的多角的に捉える力を育む。</p> <p>イ 交流及び共同学習や校内での学部をこえた交流学習等を実施し充実させる</p> <p>ウ 幼児児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育に取り組み、卒業生や各分野で活躍されている方を招いた進路講演会や進路説明会を実施する。</p> <p>エ 学部だよりやキャリア通信等お知らせの発行や、懇談等にキャリア教育プログラムを活用し保護者理解を深める。</p> <p>(2) ア ICT 機器等の活用や丁寧な指導で、「見てわかる」授業を進める。外の世界とのつながりを推進する。</p> <p>イ 外部人材等を活用した専門的な講座を開催し、学びへの意欲の向上を図る。</p> <p>ウ パーコードの読み取りによる児童生徒の自主的な図書活動の推進。中央図書館と連携により、読書活動を推進。</p> <p>エ 作文や作品応募、各種検定へのチャレンジを支援する。</p>	<p>(1) ア 各部の取組みを充実・発展させる</p> <p>ア 終了後の生徒㊦での肯定率 82%以上 [82%]</p> <p>イ 地域の学校との交流を継続、充実 [7回]</p> <p>イ 校内で学部を越えた交流、発表の場を持つ</p> <p>イ 新たな子ども㊦で、「交流が楽しい、世界が広がった」の充実度 70%</p> <p>ウ 各部署で、卒業生や外部人材を招いた進路に関わる講座を実施</p> <p>ウ 講演会や進路説明会終了後の子ども㊦での充実度 77%以上 [77%]</p> <p>エ ㊧「保護者の理解が深まった」66%以上 [66%]</p> <p>(2) ア ㊧児童・生徒及び保護者の「わかる授業」肯定率 78%以上 [75%]</p> <p>イ 国際理解教育や科学の出前授業などの実施</p> <p>ウ 図書貸し出し冊数 昨年比 20%増</p> <p>ウ 中央図書館との連携</p> <p>ウ 絵本の読み聞かせ年2回 団体貸付年3回</p> <p>ウ 新規図書購入を計画的に継続する</p> <p>エ コンクールへの応募や、漢検・英検・パソコン検定等へのチャレンジと支援</p>	<p>(1) ア 小学年毎に HR で学習 中 総合で3つのテーマで学習、文化祭と授業参観で発表 高 ペットボトルのキャップ集め 生徒㊦82% [㊦]</p> <p>イ 居住地校交流は小24回(満足度100%)中6回 小 聴覚3校の交流3回 玉造小とオンライン交流 中 上町中とテーマを決めた発表交流 聴覚3校交流2回 高 淀商と対面交流 咲くやこの花高と聴覚障がいに関する交流 [㊦]</p> <p>イ 全校朝礼で学部の取組を全体に伝える場を設け、学びを共有した。中が通学中に地震が発生した時の対応についての寸劇を、高がペットボトルキャップ回収のボランティアについて発表 [㊦]</p> <p>イ 子ども㊦肯定 80% [㊦]</p> <p>ウ 小 進路講演会1回 中 進路講演会、卒業生進路講話、高校生との探究活動、計3回 高 進路講演会、ユニバギャザリング計2回。[㊦]</p> <p>ウ 子ども㊦肯定 77% [㊦]</p> <p>エ 全校キャリア通信(各学期に発行)で情報提供をした。㊧保護者理解 [77%] [㊦]</p> <p>(2) ア 各学部で ICT 機器等を活用したわかりやすい授業づくりに取り組んだ。電子黒板機能付き単焦点プロジェクター活用1月。生徒・教員から使い易い・見やすいと好評 ㊧肯定 79% [㊦]</p> <p>イ 小・中で科学の出前授業9月に実施 [㊦]</p> <p>ウ 小・中でバーコード読み取り開始。幼稚部の図書登録完了。10月に読書月間イベント実施。図書貸し出し 2155冊(1月集計) [△] (昨年度最終集計 2172冊)。府立中央図書館と連携(協力貸出・特別貸出を中1回利用。図書寄贈受入。小学部教職員対象出前講座1回、絵本読み聞かせ4回実施。[㊦] 各部のニーズを集約し、新規図書を購入 読書環境を整えることができた [㊦]</p> <p>エ 読書感想文、作文、詩のコンクールに応募・入選。漢検、英検、パソコン検定、情報処理能力検定受験。受験生徒増、上級試験合格者増 [㊦]</p>
3 教員の専門性の向上	<p>(1) 研修や校内研究を充実させて、教員の専門性の向上。</p> <p>(2) 1人1台端末の有効な活用。IT 活用のための教職員研修を行い、活用に関わる知識や技能を向上。</p> <p>(3) 校務の効率化と働き方改革。働き方の多様性を認め合い、いきいきと働ける職場づくり。</p>	<p>(1) ア 教員の専門性、資質の向上を図るべく、計画的に研究会や研修を実施</p> <p>イ 研究保育・授業、相互見学を充実し、授業力向上を図る。</p> <p>ウ 外部研修や公開授業等への積極的な参加と参加後の情報共有</p> <p>エ 外部の教育実践を参考に、観点別評価について必要な改善を継続。</p> <p>(2) ア ICT 活用力向上のための研修を計画的に行う。</p> <p>イ 必要な機器の購入や、ICT 機器を活用しやすくする環境整備を行う。</p> <p>ウ 外部の研修や公開授業等に積極的に参加し、小・中学・高校などの取組みも参考にしながら活用力向上をめざす。</p> <p>(3) ア アンケートをもとに改善し、校務の効率化を図る。</p> <p>イ 業務の見直しにより業務量の偏りを減らし、長時間勤務の縮減に取り組む。</p>	<p>(1) ア 左記を基にした研究会や研修会を実施し、参加者への肯定率 80%以上</p> <p>イ 指導案や研究討議の質的向上をさせて、研究保育・授業を15回以上実施する</p> <p>イ 相互授業見学を1回以上実施 [91%]</p> <p>ウ 外部研修等への参加と情報共有</p> <p>エ 実績</p> <p>(2) ア 情報教育部と研究部が協力して活用力向上の研修を3回以上行う</p> <p>ア ㊧教員の ICT 活用力の肯定率 70% [62%]</p> <p>ア ㊧ICT 機器の活用についての子ども㊦肯定率 70% 新</p> <p>イ 機器の購入と使いやすい環境整備を行う</p> <p>ウ 外部研修等への参加と取組みの導入(全日ろう研、近ろう研等への参加と共有) [R2はオンラインで参加]</p> <p>(3) ア 実績</p> <p>イ 時間外勤務時間の縮減をめざす 一人あたり月平均 25時間 [27時間]</p>	<p>(1) ア 8月全校研修、9月幼小教職員研修 12月中校教職員研修を実施㊦肯定 80% [㊦]</p> <p>イ 研究授業・保育を8回実施 研究協議ではテーマをもって意見交換した。 [△]</p> <p>イ 相互授業保育見学を実施 [65%] [△]</p> <p>ウ 全日豊研2名が参加、1月に報告会 [㊦]</p> <p>エ 各学部で、他校と情報交換、情報収集を行い、必要な改善について検討中 [㊦]</p> <p>(2) ア 保育や授業での ICT 活用研修を8月1回。フォーム作成ツールと情報セキュリティ研修を12～1月に2回、ICT 活用力が高まった [㊦]</p> <p>ア ㊧教員の ICT 活用力の肯定率 78% [㊦]</p> <p>ア ㊧子どもの ICT 機器の活用肯定率 86% [㊦]</p> <p>イ 学校経営推進費により、電子黒板機能付き単焦点プロジェクター8台設置、体育館にも大スクリーン設置。小・中でタブレットを整備し、授業での活用。家庭への持ち帰りはこれから。全校の ICT 機器一覧表を作成し、必要な機器を配備。機器のメンテナンス、全校のフォルダ整理を実施。幼稚部棟の WiFi 設定、学情クラウド化に伴う設定作業、緊急文字情報の増設。 [㊦]</p> <p>ウ 情報・図書教育に関する研修5回参加。全日ろう研や他の聴覚支援見学後の情報共有 [㊦]</p> <p>(3) ア ㊦は遅れ2月実施。電話受付時間の改善(8時～18時)欠席連絡等のメールの活用 更なる働き方改革に取り組む [△]</p> <p>イ 時間外勤務時間縮減 [23時間] [㊦]</p>

府立中央聴覚支援学校

4 センター的機能充実と開かれた学校	<p>(1) 多様な相談に対し適切な支援を行う。連続性のある学びの場の確保。</p> <p>(2) HP や研修、相談支援などを通じて、聴覚障がい理解の啓発活動を推進する。</p> <p>(3) 防災の取組みについて地域の学校園等と情報交換し、連携を強める。地域へ発信する。</p>	<p>(1) ア 聴覚支援センターとして、地域の学校園からの相談に応じる。 イ 通級による指導で学習効果を上げ、子どもたちの自信や意欲を向上させる。</p> <p>(2) ア 他校や地域の教員や養護教諭等を対象にした研修会を実施し、適切な指導・支援の充実を図る。 イ みみネットなどの情報発信を続け、聴覚障がい理解の啓発活動を推進する。</p> <p>(3) ア 災害時の校内連絡体制や日常の災害対策、生徒主体の安全活動等について情報交換し、連携を強める。 イ 中央消防署と連携し、災害時の対応について子どもたちの理解を深める。 ウ 防災アドバイザーの協力で、より高い安全教育（災害体験等）を推進する。</p>	<p>(1) ア 支援校の終了後の⑦で、「ニーズに応じた相談」肯定率 95%以上 [100%] イ 終了後に子ども⑦を実施。肯定度 80%</p> <p>(2) ア 研修会を 3 回以上実施する ア 参加者の⑦で、肯定率 95%以上 [100%] イ みみネットで情報発信 10 回以上 [11 回] イ 「きこえないを知る」をテーマに文化祭での展示開催</p> <p>(3) ア 連携校への視察・情報共有により、本校の被災時体制の改善を図る 3 校以上 イ 地震避難の手話動画の作成協力 イ 訓練時の連携と起震車等の活用で、子どもたちの理解を深める（実績） ウ 実績 ウ SDGs や防災の取組み等を校外へ発信する。</p>	<p>(1) ア 1 月末までに 264 件の支援を実施。相談校への⑦を実施。肯定率 100% [○] イ 通級の子ども⑦実施肯定率 80% [○] (2) ア 8 月「聴覚障がいのある幼児・児童・生徒を担当する教員研修会」と「養護教諭セミナー」計 44 名参加。1 月「みみネットアカデミー」20 名参加。計 3 回 [○] ア 肯定率 100% [◎] イ みみネットで情報発信 11 回 [○] イ 文化祭で「きこえない」を知る二日展を実施 [○] (3) ア 9 月本校にて南大江地区防災訓練を実施。南大江小・東中・銅座幼稚園も参加し連携。10 月藤井寺支援校、兵庫県小野特別支援校を視察、情報交換を行った。11 月には兵庫県立東播磨高等学校、福岡聴覚特別支援校の視察。災害発生時の対応について、誰でも役割を担えるようなマニュアルに改訂。 [◎] イ 手話動画は消防署の担当者転勤で作成できず [△] イ 中央消防署と連携し、煙中体験・消火体験（5 月）起震車体験（1 月）を行った。子どもと教職員が体験し、実感を伴う訓練ができた [◎] ウ 大阪教育大学学校安全推進センター主催の研究会にて本校 SPS の取り組みを報告。また福岡の研究会、中央区の福祉協議会において報告。10 月 26 日の PTA 防災講演を地域に案内。大阪市中央区福祉協議会と連携し、地域の災害ボランティアに向けて特別支援学校の防災の取り組みを紹介。 [◎]</p>
-----------------------	---	---	---	--